ウクライナ週報

【３月２４日～３月３０日】

#12-13

〔ウクライナの報道をもとに作成〕
平成２４年4月3日
在ウクライナ大使館

Ａ．主な動き

１．内政

▼ティモシェンコ前首相に関する動き

・28日、国家保安庁は、「ウクライナ統一エネルギー・システム」社に関するティモシェンコ前首相に対する起訴状の開示期間が終了し、5日間以内に裁判所に起訴状が提出される見込みである旨発表。これに対し、同前首相のヴラセンコ弁護人は、4名の同前首相弁護人のうち2名は起訴状を精査するための十分な時間がなかったとし、国家保安庁の決定は違法である旨発言。

・29日、ハルキフ州検察庁は、「ウクライナ統一エネルギー・システム」社関連のティモシェンコ前首相に対する起訴状をハルキフ市キエフ地区裁判所に提出した旨発表。

▼野党の動き

・30日、「バチキフシナ」党（ティモシェンコ党首）は、党大会を開催。「国民自衛」党（ルツェンコ党首）は、ティモシェンコ前首相による野党統合の呼びかけに応じ「バチキフシナ」党に統合する方向である旨発表。

・30日、クリチコ「ウダール」党党首は、最高会議議員選挙において同党は野党の比例代表候補者リストに参加しない旨発言。

▼その他

・28日、国家刑務所管理庁は、欧州評議会議員会議（PACE）監視委員会の担当官がハルキフ市カチャニフスク刑務所でのティモシェンコ前首相との面会を許可しなかった旨発表。

・29日、国家刑務所管理庁は、PACE監視委員会の担当官がキエフ市ルキヤニフスク拘置所を訪問し、拘留中のルツェンコ前内相と面会した旨発表。

２．経済

▼マクロ経済

・28日、ポロシェンコ経済発展・貿易相は、2012年のマクロ経済予測の指標の修正を検討しており、今週の終わりにはその問題を決定する旨発言。現時点における公式な予測は2012年のGDP成長率が3．9%、インフレ率が7．9%。

▼IMF

・29日、ヤヌコーヴィチ大統領は、IMFの要請に対して、家庭のガス価格の値上げ以外の条件を満たしているが、ガス価格については、現在でも高いと考えるところ、その要請に同意は出来ない旨を発言。また、長期的にはIMFとの合意が図られると考えており、スタンドバイプログラムが実施可能となる旨発言。

▼財政

・29日、チヒプコ副首相兼社会政策相は、5月1日より年金を引き上げるという大統領のイニシアティブの要請には更に77億フリヴニャが必要である旨発言。これは年金基金の更なる不足を引き起こすかもしれないが、政府は財産税のような新たな税収によって補填されることを期待している旨発言。

▼投資プロジェクト

・29日、キエフ市は、300億フリヴニャを超える価値のある投資プロジェクトを実施するための第一回目の国際投資フォーラムが実施され、6つの覚書が署名された旨報告。これらのプロジェクトは革新的な公園の建設プロジェクト「Bionic Hill」やビジネス地域創設プロジェクト「Kyiv-City」、「Air Express」や「Clean City National Projects」等、キエフ州におけるインフラ整備プロジェクトが含まれている旨も併せて報告。

▼ガス問題

・30日、ホロシコフスキー第一副首相は、IMFの要請に応じ家庭向ガス価格の漸次値上げを行なう可能性につき言及。

３．外政

▼グリシチェンコ外相のベルギー訪問

・23日、グリシチェンコ外相は、ブリュッセル・フォーラム出席のためベルギーを訪問し、シコルスキ・ポーランド外相と会談。両者は、ウクライナ・EU連合協定締結への展望に関し協議し、ウクライナの欧州統合に対するポーランドの支持の継続及び「ユーロ2012」実施に向けた両国外務省間の協力につき確認。

・23日、グリシチェンコ外相は、訪問先のブリュッセルにおいて、ラスムセンNATO事務総長と会談し、5月のシカゴNATOサミット準備状況及び「ウクライナ・NATO間の特別なパートナーシップに関する憲章」制定15周年記念式典に関し協議。両者は、「ユーロ2012」開催期間中の安全保障におけるウクライナとNATOの協力の重要性を確認。

▼ヤヌコーヴィチ大統領のカザフスタン訪問

・26日、ヤヌコーヴィチ大統領は、カザフスタンを訪問し、マシモフ首相と会談。双方は、両国政治対話の活性化の必要性を強調し、経済・貿易協力問題に関し協議。

▼ヤヌコーヴィチ大統領の韓国訪問（26～28日）

・26日、ヤヌコーヴィチ大統領は、核安全保障サミット本会議に先立ち、胡錦濤中国国家主席と会談し、両国間経済・貿易の活性化の方策につき協議。また、同大統領は、アリエフ・アゼルバイジャン大統領、メドベージェフ露大統領、グリボウスカイテ・リトアニア大統領、ニーニスト・フィンランド大統領及びチュオン・タン・サン・ベトナム国家主席と懇談。

・27日、ヤヌコーヴィチ大統領は、ユドヨノ・インドネシア大統領と会談し、インドネシアは東南アジア地域におけるウクライナの重要なパートナーであり、二国間関係を強化する意向を表明。同日、ヤヌコーヴィチ大統領は、潘基文（パン・ギムン）国連事務総長と会談。潘事務総長は、ウクライナの核安全保障分野における国際協力、特に福島第一原発事故後の日本に対するウクライナの支援に謝意を表明。

・27日、ヤヌコーヴィチ大統領は、オバマ米大統領と会談し、核安全保障分野における二国間関係の展望に関し協議。オバマ大統領は、ウクライナが高濃縮ウランの国外移送を完了したことに対し謝意を表明した一方、10月の議会選挙の自由、公平、透明性を保障することで、ウクライナにおける民主主義を示す重要性を強調。同日、ヤヌコーヴィチ大統領は、ファン＝ロンパイ欧州議会議長及びバローゾ欧州委員会委員長とウクライナ・EU関係に関し協議。

・28日、ヤヌコーヴィチ大統領は、金滉植（キム・ファンシク）韓国国務総理と会談し、両国協力関係に関し協議。金滉植首相は、核安全保障におけるウクライナの貢献を高く評価。ヤヌコーヴィチ大統領は、韓国はウクライナの友人でありパートナーである旨発言。同日、同大統領は、現代自動車及びサムスン電子社長等とそれぞれ会談し、韓国からの投資を呼びかけ。

・28日、ヤヌコーヴィチ大統領は、李明博（イ・ミョンバク）韓国大統領と会談し、両国の友好関係の更なる深化につき言及。李明博大統領は、ウクライナのサミットにおける貢献を高く評価。

▼グリシチェンコ外相の韓国訪問

・26日、グリシチェンコ外相は、韓国を訪問し、チュー米エネルギー省長官と会談。両者は、原子力の平和利用の分野におけるウクライナ・米協力関係に関し協議。チュー長官は、ウクライナが高濃縮ウランの国外移送をサミット前に完了したことに対し歓迎の意を表明。

・27日、グリシチェンコ外相は、サーイド・アラブ首長国連邦外相と会談し、航空機・船舶製造、エネルギー等の分野における相互経済協力の活性化、中東の和平プロセスに関し協議。また、同日、グリシチェンコ外相は、ベアード・カナダ外相と会談し、二国間自由貿易協定署名の交渉開始問題等に関し協議。両者は、OSCEにおける両国の協力に関し意見交換、民主的選挙実施に対するOSCEの貢献を指摘。

▼ヤヌコーヴィチ大統領の核安全保障サミット出席

・27日、ソウルで開催された核安全保障サミットに出席したヤヌコーヴィチ大統領は、核安全保障は物理的及び運用面の両面から解決しなければならない旨発言し、チェルノブイリ事故後にウクライナが受けた国際社会からの支援に謝意を表明。同大統領は、4月26日にチェルノブイリ原子力発電所の新「シェルター」建設を開始する旨、ウクライナ国内での脅威は低いものの原子力関連施設の保護が核テロ対策分野におけるウクライナの課題である旨及びウクライナは独立後20年間一貫して核軍縮・核不拡散を支持してきた旨発言。同大統領は、また、ウクライナがチェルノブイリ原子力発電所に創設予定の世界レベルの科学研究センターに福島原子力発電所の事故処理経験を有する日本の参加を提唱。

▼リトヴィン最高会議議長のカザフスタン訪問

・26、27両日、リトヴィン最高会議議長は、カザフスタンを訪問し、CIS諸国議会間会議創設20周年記念総会に出席し、ウクライナはCIS枠内での活動に積極的に参加する意向である旨表明。

・26日、リトヴィン議長は、アサドフ・アゼルバイジャン議会議長と会談し、両国の友好関係を深めると共に実質的な協力関係を強化することで合意。また、同日、リトヴィン議長は、ニグマトゥリン・カザフスタン下院議長及びマミ・カザフスタン上院議長、ジェーンベコフ・キルギス共和国議長及びマトヴィエンコ露連邦院（上院）議長等と個別に会談。

▼ウクライナ・EU連合協定仮署名

・30日、ブリュッセルにおいて、クリムキン・ウクライナ外務次官及びライチャーク欧州対外活動庁欧州・中央アジア局長は、ブリュッセルにおいてウクライナ・EU連合協定に仮署名し、共同声明（深化した包括的FTA創設合意に関する部分は、その内容の法的精査を完了する必要がある旨記載）を発表。同日、グリシチェンコ外相は、技術的観点から見ても、仮署名から（本）署名までは楽観的に見ても6ヶ月から12ヶ月を要するとする見方を提示。

４．防衛

・26日、ラスムセンNATO事務総長は、ヤヌコーヴィチ大統領をNATOシカゴ首脳会合に招待する旨発言。

（了）